

共に喜んで
～すべての歩みの中で～

聖句「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」
—コリントの信徒への手紙— 12章26節

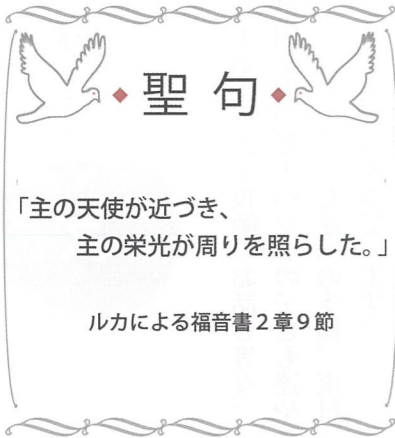


「コロナ禍のクリスマス」

横浜愛隣幼稚園園長
平田 一吉

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川県
2022年3月15日
第140号



幼子イエスの誕生は闇を照らす「光」です。希望の光、愛の光、恵みの光、喜びの光の誕生です。このコロナ禍の世界を、神の創造の秩序に再び呼びもどす、天地創造の最初の光を思い起こさせる「光」の誕生です。
「わたしは、小さい光、ひかりましよう。わたしは、小さい光、ひかりましよう。光れ、光れ、光れ。悪魔が吹いても、ひかりましよう。悪魔が吹いても、ひかりましよう。光れ、光れ、光れ。」
クリスマス会のペイジェントで歌う、この歌を園児たちは、アドベントから練習します。人差し指を立てて、それを口ウソクに見立てて歌います。

二〇二二年十二月十六日のクリスマス会は、新たなオミクロン株の感染も拡がっていませんでしたので、全園児で行うことができました。しかし、二階の礼拝堂に、保護者全員が入ることは避けて、各家族一名の参加で、しかも年少・年中の保護者は昨年同様、階下ホールの大スクリーンに、同時進行で撮影されて映し出される映像を鑑賞するという変則的なものでした。リアルで見ることができたのは今年も年長さんの保護者だけになってしまいました。
それでも、年長さんたちがペンライトを灯して会場に入場し、先に座って待っていた年少、年中さんたちは人差し指をかざして、先ほどの歌をみんなで歌い始めると、ペイジェントは緊張の中にも、盛り上がりつぎます。そして最後は、全員が舞台上がり、「いと高きところには栄光、神にあれ。地には平和、御心に適う人にあれ」と一斉に賛美して、ペイジェントは終わります。
残念ながら今年もサンタさんは来てはくれませんでした。でもサンタさんから、子ども達に手紙が届きました。「みんなの教室にプレゼントを置いて行きます。後で、先生からもらってくださいね。サンタさんより」。それを聞いて子どもたちは大喜びです。
ところで、クリスマス会の数日前、年中組のお母さんがこんなことを私に話してくれました。



「ママには、サンタさんは何もくれないの？」と「そうよ」と答えると、「じゃあ、僕がママにプレゼントをあげるね」と言ってくれたそうです。
園児たちは、クリスマスの日にお家の方へ手渡すプレゼント作りに、一生懸命だったのです。
子どもから直接手渡された手作りのプレゼントをもらったお母さんは、目を潤ませていました。園児たち一人一人が、このクリスマスの日に、「光の子」となった瞬間でした。クリスマスの日、お母さんがこんなに喜んでくれることを知った子どもたちは、きっと、「光の子」であることの意味が分かったのではないのでしょうか。
そしていつか、神様からの最大のプレゼント、イエス様の誕生を自ら喜び賛美する日が来ることを願っています。

役員会報告

書記 島義信

●第七回役員会

ウェブ会議形式で
九月六日(月)に行いました。

●中堅保育者研修会

九月二十九日(水)
ハリス記念鎌倉幼稚園のSDGSの取り組みをご紹介いただき、SDGSについての学びの時を持ちました。

●第八回役員会

ウェブ会議形式で
十一月十八日(木)に行いました。

●クリスマス礼拝

十二月一日(水)一五時半
野毛山キリストの教会よりライブ配信にてそれぞれの場所でも時と心を同じくして礼拝を守りました。

●第九回役員会

クリスマス礼拝後
野毛山教会にて行いました。

●設置者・園長・主任研修会

ウェブ形式で十二月二十七日(月)岡村直樹先生に「ミニストリーとしてのキリスト教保育」のお話をさせていただきました。

●保育環境研修会

一月十九日(水)
幼保連携認定こども園として歩み始めた宮の台幼稚園の環境と保育をウェブ形式で紹介いたしました。

●第二回新任保育者研修会

一月二十六日(水)
ウェブ会議形式で認定こども園伊勢原幼稚園園長 田口美穂先生より「保育者の大切な勤め」―仕えるものとして―とお話を伺いました。

●第十回役員会

ウェブ会議形式で
一月二十七日(木)に行いました。

二〇二二年度予定



○プロジェクト委員会

四月五日(火)午後一時半より
ウェブ形式

○神奈川県総会

四月十二日(火)ウェブ形式

○新任教員歓迎会

四月二十日(水)ウェブ形式

○部会費納入依頼

五月中旬配布 五月末までに納入

○第一回講演会

六月十五日(水)飯

○新任教員研修会

六月二十二日(水)飯

○夏期講習会

八月二十三日(火)飯

講師と日程の調整中で変更する場合があります。
決定次第、ご案内させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

年長組の教室から「思い出のアルバム」の歌声が聞こえてきます。歌詞にあるように「一年中を思い出してごらん、あんな事こんな事あったでしょ〜」と振り返って見ました。卒園して行くこの子たちは園生活の半分もの間、マスクで過ごしたな〜そんなことを思うとなんだか切なくなりました。



◇発行日 2022年3月15日
◇編集者 神奈川県 広報担当 百合丘めぐみ幼稚園/大谷真理子 霞ヶ丘幼稚園/大西亜津子
◇デザイン 永野絵理世
◇イラスト提供 霞ヶ丘幼稚園

コロナ禍のクリスマス

夢 持ち続けよう 叶う

高見保育園園長
小川 富美枝

「あなた方は心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」「愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。」と、聖書にありますから、私自身は心静かに平安の内に過ごし辛い園も守られています。

「コロナ禍のクリスマス」

橋本駅そばの杜のホールは二十周年を迎え、当園も杜のホールでの二十回目のクリスマスお遊戯会を一日かけて分けて行いました。毎年、聖誕劇を演じていますが、同じセリフなのに、その都度、新鮮さがあり、感動して下さっています。きつと天使が応援に来ているのでしょうか。

例年でしたら、午後一時には終わり、午後にはチャリティを兼ねてコンサートや講演会を催していました。福音歌手の森祐理さんから始まり、リトルジョイの河井ノアさん、ア

コロナ禍で実践した 手厚い保育

相模白ゆり幼稚園園長
山崎 史朗

幼稚園は、年少三クラス、年中二クラス、年長二クラス、全園児数・百五五名の規模で運営しています。園では毎週金曜日に設置者である相模原教会の牧師によって園礼拝が行われます。従来であれば教会のホールに全園児が集まって礼拝をささげていました。しかしながらこのような状況の中、密を避けることから1学期は、年少は教室で園長が短くお話を、年中長はホールで牧師のお話を聞く体制をとりました。そして二期からは、広い礼拝堂で園礼拝を守るように移行しました。

コロナ二年目にして色々な工夫を施してキリスト教保育を行っています。説明しました一学期の園礼拝の実施例は、逆に年少さんにとっては手厚い保育の一例になったのではないかと思います。初めての集団生活の中、少人数でお話を聞いて、お祈りを献げる練習ができたことは幸いです。

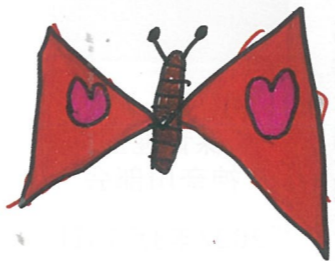
十二月には市民会館でクリスマス祝会を行うことができました。「神は、その独り子をお与えになったほ

サーホーランド牧師のお話し等々。母国を失ったチベットの子ども達や小児ガンの子ども達への支援、東日本震災等へ贈っています。

毎年、その都度、不思議な出来事が舞い降りてきます。2年前は、医療ケア児にも園の扉をと、地域の方達の応援でコンサートを行い2年後の現在、扉が開かれました。

今年度は、失明寸前のお姉さまを思い、妹の作で、「お姉さまと一緒に絵本を残したい。」その思いに賛同し、そのお姉さまが小学六年生の時に描いた絵があまりにも美しく、「パライス」と名付け、幸せを運ぶカレンダーとして千五百枚作り、あちこちに飛んでいます。

「夢 持ち続けよう 叶う」
と思っています。



コロナ禍でも喜びの クリスマス

和泉保育園園長
片山 知子

コロナ禍は行事の見直しが促され、子どもの主体的な活動の取り組みに繋がる機会にもなりました。これまでの「そうすることになった」というだけの理解では不十分であることに気付かされ、改めて活動の意味を問い直しました。クリスマス礼拝についても同様でした。

そして二度目のクリスマスが巡ってきました。コロナ禍は続いていますが、クリスマスの準備は昨年のように始まりました。アドベント礼拝は幼児三クラスと一緒に毎週一回、アドベントクラウンを一本ずつ灯し、聖書の言葉、クリスマス絵本からのメッセージと一緒に聴き、賛美を合わせました。このアドベントに嬉し

本園にはクリスマス礼拝の中で子どもが演じる聖劇のオリジナル台本があります。今年の聖劇はその台本を基に担任たちによって子どもたちがクリスマス礼拝全体に参与するものへと再構成されました。子どもによる始まりの言葉やお祈りの言葉、劇の大道具は子どもたちで作った馬

メリークリスマス ハレルヤ!

本牧めぐみ幼稚園教頭
中村 佳代子

コロナの感染予防をしながらの保育が始まって、二年がたとうとしています。コロナが流行り始めた時、子どもたちは、ブロックでダイヤモンド・プリンスを作って遊んだり時代に敏感に反応しつつ、変わりなく遊ぶ姿がありました。またその後緊急事態宣言が発令され、前代未聞の六月の入園式、始業式となりましたが、幼稚園再開の日の喜びは今でも忘れることはできません。

私どもの園では、毎年、十一月中旬から二年前前に生まれたイエス様のお話を、子どもと保育者で味わいクリスマスを迎える準備を、礼拝堂のアドヴェントクラウンを見上げながら、一日一日進めていきます。年長児がページェントを行います。マリヤ、ヨセフ、天使、ローマ兵、宿屋、星、羊飼、三人の博士役を決め、昔々の出来事に想いを馳せながら、歌い、演じます。今年度は誰が何の役になるかは、保育者の楽しみの一つでもあります。今年度は、どうしてもページェントをやりたくない、という園児がいました。こうと

小屋、宿屋玄関、飼葉桶などが用いられ、讚美歌には新しい曲が選ばれ、場面の情景を表現するために楽器を奏する役割も加えられていきました。こうして子どもと共に作り上げる総合的な協同活動としての聖劇が完成していきました。

そして三歳、四歳の子どもたちはクラス毎に五歳児の練習の様子を見る機会を持ちました。その聖劇を見た後、打合せなしに、感謝の祈りを三歳、四歳の各担任にしてもらいました。

その場にいる異年齢の子どもたちと他クラスの保育者が一緒に心を合わせ、五歳児の堂々と演じる姿に感動した思いを、キリスト教信徒ではありませんがキリスト教保育を担う同僚の保育者が自分の言葉で喜びと感謝として祈ってくださいました。これは聖霊の働きによる今年のクリスマスへの豊かな恵み、嬉しい出来事でした。



思ったら、決して譲らない芯のある子どもです。友だちがページェントをやることを座ってしっかりと見えます。見て参加することもありません。私たちが心を決め、小道具を出す係を打診したところ、恥ずかしそうではあるものの、納得し、しっかりと大役を果たしました。昨年度、今年度と、全クラスの園児、保護者と一緒にクリスマス礼拝を守ることは叶いませんでしたが、どんな時でも、クリスマスは必ず来るとい喜び、恵みをコロナ禍のクリスマスを通して確信致しました。ハレルヤ!

